

商法中改正法律案特別委員小委員會議事速記錄第二號

昭和十三年二月七日(月曜日)午前十時八
分開會

○委員長(山岡萬之助君) ソレデハ是ヨリ
開會致シマス、山隈委員カラ發言ヲ求メラ
レマシタカラ、此ノ際山隈委員ニ發言ヲ願
ヒマス

○山隈康君 商法改正法律案ノ第三十四條
ト二百八十五條デゴザイマスガ、此ノ關係ニ
ル處、稍其ノ質問ノ趣旨ガ徹底ヲ缺クヤ
ウデアリマスカラ、極メテ簡單ニ改メテ質
問申シマシテ、御答ヲ伺ヒタイト思ヒマス、
第三十四條ノ規定ハ一般ノ財產ニ對シテハ時
價ヲ以テ記載シナケレバナラヌ、財產目錄
ノ調製ノ時ニ於ケル時價ヲ超エテハイケナ
イ、是ガ原則トナツテ居ルヤウデアリマス、
但シ營業用ノ固定財產ニ付テハ、是モ原則
トシテハ時價ヲ以テ記載スルノガ原則デア
ルト存ジマスルケレドモ、其ノ取得價額、
製作價額カラ減損額ヲ控除シタラバ、假
令ソレガ時價ヲ超エテモ差支ナイ、斯ウ云
フ意味ニ解スベキモノト思フノデアリマス、
而シテ二百八十五條ノ場合ニ於キマシテモ、
會社ガ製作品ノ販賣、若シクハ重要物產ノ

販賣等ヲ目的ト致シマスル其ノ會社ノ最モ
重要ナル財產タル商品、是ハ矢張リ三十四
條ニ依ッテ時價デ記載スベキモノデアルト
云フ原則ヲ之ニ認メテ、サウシテ唯之ヲ固
定財產ノ場合、マア有價證券ニ付キマシテ
ハ私議論ノ餘地ガナイト思ヒマス、其ノ他
ノ營業用ノ固定財產ニ付キマシテハ取得價
額、若シクハ製作價額ヲ記載スレバ宜シイ、
サウ致シマスルト、三十四條ニ比ベマスル
ト、株式會社ノ方ハ寛ニナシテ、三十四條ノ
場合ニハ其ノ製作價額及取得價額カラ減損
額ヲ引カナケレバ記載ガ出來ナイ、會社ノ場
合ハソレハ引カヌデモ其ノ儘記載シテ宜
シトイ應解釋スルヤウデアリマス、ソコ
デ私ノ疑ノ存スル所ハ、第一此ノ個人ノ商
業ニ於キマシテハ其ノ商業帳簿ヲ別ニ登記モ
致シマセヌ、從ツテ第三者ガ取引ヲ致シマス
場合ニ於テハ、日本ノ從來ノ習慣カラ致シ
マシテモ、其ノ商業帳簿ノ財產目錄ニ重キ
ヲ置カズシテ、寧ロ實際ノ取引ノ情況、世間
ノ批評、或ハ物ノ賣買代金ニ對スル支拂情
況等ヲ視察致シマシテ、取引ヲスルノガ常
態デアリマス、會社ノ場合ニ於キマシテハ、會
社ノ狀態ト云フモノハ容易ニ他ニ見エナイ、

提示シタル書面ヲ其ノ儘信ジテ報告ヲスル
ト云フヤウナ狀態デアリマスカラ、第三者
ガ會社ト取引ヲ致シマス場合ニハ、矢張リ
主トシテ財產目錄、貸借對照表ヲ信用シテ
取引スルノガ常態デアルト思ヒマス、此ノ
故ニ個人ノ取引ニ對スル商業帳簿ノ正確ヨ
リモ、寧ロ會社ニ對スル財產目錄等ノ調製
ガ極メテ嚴格正確ヲ要スルト云フコトハ當
然ノ筋合ナリト存ズルノデアリマス、從ツテ
屢々例ヲ各委員カラ御引キニナリマシタ例
ヘバ百萬圓デ船舶ノ輸送ヲ業トスル會社ガ
百萬圓テ十隻ノ船ヲ買入レ、ソレガ年月ガ
經過スルニ從ツテ五十萬圓ニ其ノ財產ハ低
減シタ、或ハ金、銀、銅等ノ採掘、若シク
ヘ石炭ノ採掘ヲ業トスル會社、是等ハ往々
斷層ニ依ッテ使用價格ヲ非常ニ減ズル、或ハ
石炭坑ニ於テハ屢々見マス水害、若シクハ瓦
斯ノ爆發ニ依ッテ坑内ニ火災ヲ起シ、其ノ間
ニ使用價格ガ非常ニ減ズル場合ガアル、其
ノ際ニ於テモ尙當初ノ取得價額デ財產目錄
ニ表示ヲスルト云フコトニナリマスト云
フ、或ハ第三者ハ其ノ財產目錄ニ對シ
テ不安ヲ懷キ、又ハ然ラザルモノハ財產

目錄ヲ目標ト致シマシテ、是ダケノ有力ノ資産ガアリト信ジテ取引ヲ致シマスレバ、第三者ハ不測ノ損害ヲ被ル、ソレデ第三者ノ取引ノ安全、第三者ニ不測ノ損害ヲ被ラシメナイト云フコトハ、會社ノ商業帳簿ノ正確ト云フコトハ、一面ニハ會社ヲ保護シ、他面ニハ取引ノ安全ヲ期スルト云フコトノ趣旨ニ解スルモノデハナイカト存ズルノデアリマス、又私共此ノ商法全體カラ見マシテモ、物ノ價格ニハ交換價格ト使用價格トニツシカナイノデヤナイカ、處ガ此ノ二百八十五條ノ固有財產ニ付キマシテハ使用價格モナケレバ……使用價格ハ使用ノ年月ニ依ヅテ減損スレバ、使用價格ハ減ツテ來ル譯デアリマス、使用價格デモナケレバ、減損價格デモナイ、交換價格デモナイ、結局其ノ財產目錄調製ノ當時ニ於ケル價格ヲ定ムル基礎デナクシテ、歴史的過去ノ事實ト云フ買收價額、製作價額ヲ基礎トシタト云フコトハ甚ダ其ノ意ヲ得ナイヤウニ解スルノデアリマス、寧ロ此ノ場合ニ於テハ三十四條ハ減損價額ヲ控除シタル

スガ、會社ノ場合ニ於テハ減損價額ヲ控除シタル額ヲ記載スベシト、斯ウ命令的ニスルト云フコトガ會社ノ財產目錄ヲ正確ニスル所以デハナイカト確ク信ズルノデアリマス、従來ノ質問モ其ノ點ニアリマシタケレドモ、ドウモ質疑ノ正確ヲ失ッタヤウデアリマス、更ニ改メテ御伺ヒ致シマス

○政府委員(大森洪太君) 前回商法中改正法律案ノ第三十四條及第二百八十五條ニ付キマシテ御質問ガアリマシタ、之ニ對スル私ノ御答ガ極メテ不十分デアリマス、明確ヲ缺イタノデアリマス、ソレヲ甚ダ恐縮ニ存ジテ居リマシテ、實ハ今日御許シ得マシテ其ノ御答ヲ補充致シタイト存ジテ居ッタノデアリマス、丁度今重ネテ御質問ガアリマシタカラ、此ノ機會ニ前回ノ私ノ答辯ヲ補充シツ、御答ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、只今ノ御意見ハ第二百八十五條ガ第三十四條ヨリモ寬ナリト云アリマス、第三十四條ノ第一項ハ御指摘ノ通リニ時價ヲ以テ記載スル、斯ウ云フ原則ヲ明カニシタモノデアリマス、是ハ現行法ノ第二十六條ノ第二項ト全ク同趣旨デアリマス、デアリマスルカラ、時價ヲ以テ記載スルト云フ原則ハ此ノ案ニ於テモ決シテ動カ

ナイノデアリマス、是ガ根本ニナルノデアリマス、第三十四條ノ第二項ハ之ニ稍、餘裕ヲ付ケタモノデアリマシテ、其ノ中デ營業用ノ固定財產ニ付テハ時價ニ據ラナイデ、其ドモ、ドウモ質疑ノ正確ヲ失ッタヤウデアリマス、更ニ改メテ御伺ヒ致シマス

○山隈康君 第三十四條及第一百八十五條ヲ記載スベシト、斯ウ命令的ニスルト云フコトガ會社ノ財產目錄ヲ正確ニスル所以デハナイカト確ク信ズルノデアリマス、従來ノ質問モ其ノ點ニアリマシタケレドモ、ドウモ質疑ノ正確ヲ失ッタヤウデアリマス、更ニ改メテ御伺ヒ致シマス

フ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、時價ガ若シ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル額ヨリモ多イ場合、其ノ時ニハ多クハ時價ヲ付ケマセウ、此ノ第二項ノ適用ノアリマスルノハ、時價ガ此ノ價額ニ比シテ下ッテ居リマスル場合ニ、其ノ下ッタ時價ヲ付ケルノガ第一項ノ命ズル所デアリマスルケレドモ、併シ第二項ノ價額ヲ付ケテモ宜イ、是ハ營業用ノ固定財產デアリマスカラ、之ヲ今讓渡スルト云フヤウナ關係デハアリマセヌカラ、此ノ時價以上ノ價額ヲ付ケテモ差支ガナシ、弊害ガナイ、其ノ裕リヲ此處ニ付ケタモノデアリマス、是ハ御承知ノ通リニ外國法ニ於テモ此ノ餘裕ヲ認メテ居ルノデアリマス、第三十四條ノ第一項ハ御指摘ノモ寛ナモノデハナイノデアリマシテ、第三十

四條ノ原則ニ對シテ一ツノ嚴シキ制限的規定ヲ置イタモノト私共ハ解シテ居ルノデアリマス、之ヲナゼ嚴ニシタカト云フコトニアルノデアリマスルケレドモ、此ノ第三十四條ヲ株式會社ニ於キマシテ特ニ嚴ニスル意

味ニ於キマシテ、第二百八十五條ヲ設ケタ次第デアリマス、此ノ第二百八十五條ノ中ヲ付ケタモノデアリマシテ、其ノ中デ營業用ヲ控除シタル價格ヲ付ケテ宜シイ、斯ウ云フ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、之ニ言及スルコトハ控エマスルガ、營業用ノ固定財產デアリマス、此ノフ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、時價ガ若シ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル額ヨリモ多イ場合、其ノ時ニハ多クハ時價ヲ付ケマセウ、此ノ第二項ノ適用ノアリマスルノハ、時價ガ此ノ價額ニ比シテ下ッテ居リマスル場合ニ、其ノ下ッタ時價ヲ付ケルノガ第一項ノ命ズル所デアリマスルケレドモ、併シ第二項ノ價額ヲ付ケテモ宜イ、是ハ營業用ノ固定財產デアリマスカラ、之ヲ今讓渡スルト云フヤウナ關係デハアリマセヌカラ、此ノ時價以上ノ價額ヲ付ケテモ差支ガナシ、弊害ガナイ、其ノ裕リヲ此處ニ付ケタモノデアリマス、是ハ御承知ノ通リニ外國法ニ於テモ此ノ餘裕ヲ認メテ居ルノデアリマス、第三十四條ノ第一項ハ御指摘ノモ寛ナモノデハナイノデアリマシテ、第三十

四條ノ原則ニ對シテ一ツノ嚴シキ制限的規定ヲ置イタモノト私共ハ解シテ居ルノデアリマス、之ヲナゼ嚴ニシタカト云フコトニアルノデアリマスルケレドモ、此ノ第三十四條ヲ株式會社ニ於キマシテ特ニ嚴ニスル意

味ニ於キマシテ、第二百八十五條ヲ設ケタ次第デアリマス、此ノ第二百八十五條ノ中ヲ付ケタモノデアリマシテ、其ノ中デ營業用ヲ控除シタル價格ヲ付ケテ宜シイ、斯ウ云フ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、之ニ言及スルコトハ控エマスルガ、營業用ノ固定財產デアリマス、此ノフ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、時價ガ若シ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル額ヨリモ多イ場合、其ノ時ニハ多クハ時價ヲ付ケマセウ、此ノ第二項ノ適用ノアリマスルノハ、時價ガ此ノ價額ニ比シテ下ッテ居リマスル場合ニ、其ノ下ッタ時價ヲ付ケルノガ第一項ノ命ズル所デアリマスルケレドモ、併シ第二項ノ價額ヲ付ケテモ宜イ、是ハ營業用ノ固定財產デアリマスカラ、之ヲ今讓渡スルト云フヤウナ關係デハアリマセヌカラ、此ノ時價以上ノ價額ヲ付ケテモ差支ガナシ、弊害ガナイ、其ノ裕リヲ此處ニ付ケタモノデアリマス、是ハ御承知ノ通リニ外國法ニ於テモ此ノ餘裕ヲ認メテ居ルノデアリマス、第三十四條ノ第一項ハ御指摘ノモ寛ナモノデハナイノデアリマシテ、第三十

四條ノ原則ニ對シテ一ツノ嚴シキ制限的規定ヲ置イタモノト私共ハ解シテ居ルノデアリマス、之ヲナゼ嚴ニシタカト云フコトニアルノデアリマスルケレドモ、此ノ第三十四條ヲ株式會社ニ於キマシテ特ニ嚴ニスル意

味ニ於キマシテ、第二百八十五條ヲ設ケタ次第デアリマス、此ノ第二百八十五條ノ中ヲ付ケタモノデアリマシテ、其ノ中デ營業用ヲ控除シタル價格ヲ付ケテ宜シイ、斯ウ云フ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、之ニ言及スルコトハ控エマスルガ、營業用ノ固定財產デアリマス、此ノフ途ヲ一ツ開イタモノデアリマス、デアリマスルカラ、時價ガ若シ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル額ヨリモ多イ場合、其ノ時ニハ多クハ時價ヲ付ケマセウ、此ノ第二項ノ適用ノアリマスルノハ、時價ガ此ノ價額ニ比シテ下ッテ居リマスル場合ニ、其ノ下ッタ時價ヲ付ケルノガ第一項ノ命ズル所デアリマスルケレドモ、併シ第二項ノ價額ヲ付ケテモ宜イ、是ハ營業用ノ固定財產デアリマスカラ、之ヲ今讓渡スルト云フヤウナ關係デハアリマセヌカラ、此ノ時價以上ノ價額ヲ付ケテモ差支ガナシ、弊害ガナイ、其ノ裕リヲ此處ニ付ケタモノデアリマス、是ハ御承知ノ通リニ外國法ニ於テモ此ノ餘裕ヲ認メテ居ルノデアリマス、第三十四條ノ第一項ハ御指摘ノモ寛ナモノデハナイノデアリマシテ、第三十

シカナイト思フノデアリマス、其ノ使用價額
歴史的ノ價額、其ノ製作當時ノ價額、經濟
上ノ價額ノ算定ノ基礎トナラナイモノニ
依ツテ記載スルト云フコトガ、如何ナモノデ
アラウト云フ點ト、ソレカラ此ノ際モット
嚴格ナラバ、取得價額又ハ製作價額ニ對シ
テハ減損價額ヲドウスルカ、斯ウ決定サレ
タナラバ、會社ノ方ニ對シテ若シクハ第三
者ノ方ニ對シテ非常ニ正確デハナイノデア
リマセウカ、普通ノ場合ニ於テハ是等ノ減
損價額ヲ控除スルニ拘ラズ、本條ニ於テハ
非常ニ價額ガ半分以上ニ固定財產ノ價額ガ
減ル場合ガ十分想像サル、ノデアリマス、モ
ウ一ツ私ガ此ノ問題ニ付テ疑問ニ堪ヘマセ
ヌノハ、例ヘバ船舶、礦山、石炭坑ノ採掘等
ヲ目的ト致シマスル際ニ於テ、其固定財產
ガ年々減損ラスル、ソコデ其ノ會社ハ常ニ
此ノ減損ニ對スル減損補填基金ト云フモノ
ヲ造ル會社ガアルノデス、處ガ此ノ點カラ
財產目錄ヲ見マスト、財產目錄ニハ固定財
產ニハ元ノ買收價額ノ百萬圓ナラ百萬圓ト
云フモノヲ財產目錄ニ載セル、ソレガ年々
ニ、五十萬圓ト云フモノヲ減損致シマシタ
ラ、減損積立金五十萬圓ト云フモノガ財產

目録ニ載シテ居ル、サウスルト、第三者ノ取引ヲ致シマス者ガ、丁度百五十萬圓ノ資産ガアルガ如キ感ラ懷キハシナイカ、固定財産ハ固定財産トシテチヤント元ノ買收價額、製作價額デ百萬圓ナラ百萬圓トスル、ソレ依ッテ減損致シマシテ、價額ガ半分ニナル、其ノ半分ニ對スルモノハ減損積立金デ、チヤント積立金トシテ財產目錄ニ擧ゲテ居ル、斯ウ云フ場合ニ於テハ第三者ガ其ノ會社ノ資力ニ對シテ大ナル錯誤ヲ來スヤウナ虞ハナイカト云フ點ト、モウ一ツ御尋ネシクイコトハ、只今御尋ノ取得價額、製作價額ト云フ此ノ第二百八十五條ノ價額ハ、時價ヲ超ユル場合ニハイケナイ、時價ニ達シナイ場合ニ於テノミ、今私ノ聽キヨウガ間違タカモ知レマセヌケレドモ、取得價額、製作價額ヲ記載スルト云フコトデアルカラ、第三十四條ヨリモ寧ロ嚴格デハナイカト云フ御示シノヤウデアリマスガ、ソレハドウモ此ノ法文自體デハ一向サウ云フ風ニ解釋スル餘地ガナイヤウニ存ゼラレマスガ、此ノ點モ併セテ御伺ヒ致シマス

ニ時價ト取得價額ヲ比べマシテ、時價ノ方額等ヲ書カナケレバナラヌ、即チ時價及取得價額トヲ比較致シマシテ、其ノ下ノ價額ヲ書カナケレバナラヌト云フ解釋ノ下ニ立案ヲサレタノデアリマス、之ニ對シマシテ法文上ドウモサウ讀メナイト云フ御議論デアリマンタガ、或ハ見解ノ問題ニナリマシテ、恐縮デアリマスルケレドモ、第三十四條ガ一般ノ原則デアリマシテ、是ガ株式會社ニ矢張リ臨ンデ居ルト云フ頭カラ致シマシテ、其ノ三十四條ヲ受ケツ、更ニ二百八十五條ガアルノデアリマスカラ、只今申述ベタヤウナ解釋ノヤウニナルダラウト思フノデアリマス、併シ其ノ解釋ガ此ノ法文ハ不十分デアルト言ハレマスルナラバ、先程申述べマシタ通り、此ノ記載方法ニ付テハ施行法ニ依リマシテ命令デ之ヲ定メマスル時ニ、ソレ等ニ付テハ解釋上遺漏ノナイヤウニ十分ノ措置ヲ講ジタイト存ズルノデアリマス、只今ノ御質問ハ第一點乃至第四點ニ瓦ツテ居ッタヤウデアリマシタガ、第四點ニ對シマスル只今ノ御答ヲ以テ自カラ第一點乃至第三點ノ御答ニ爲シ得ルダラウト思フノデアリマス、即チ第一點デアリマスルガ、此ノ二百八十五條ニ付テ交換價額デ

モナク使用價額デモナイ、一種ノ所謂歴史的價額ト謂フベキヤウナモノヲ此處ニ引張リ出シテ來ルノハ、甚ダ宜シクナイノデアッテ、ソレガ人ヲ迷ハシムル因デアルト云フ御説デアツタヤウニ存ズルノデアリマス、是ガ若シ所謂歴史的價額デアリマスルナラバ、全ク御説ノ通リデアリマスルケレドモ、併シ此ノ二百八十五條ハ矢張リ交換價額ヲ主トシテ居ルノデアリマシテ、交換價額ガ偶々上ッテ居ル、取得價額等ヨリモ上ッテ居ル場合ニ、其ノ交換價額ヲ取得價額ノ限度デ抑制シテ記載スペキモノデアル、斯ウ云フ趣旨デアリマシテ、矢張リ根本ハ交換價額ヲ土臺ニシテ居ルモノト御了承ヲ願ヒタインデアリマス、又第二點デアリマスルガ、此ノ場合ニ二百八十五條ニ付テモ矢張リ減損價額ヲ考ヘナケレバナラナイデハナイカ、斯ウ云フ御説デアリマシタガ、第一點ニ付テ申述ベマシタ通リニ、交換價額トサウシテ製作價額等ヲ比較致シマシテ、製作價額等ヨリモ交換價額ガ上デアル場合ニ、其ノ上ノ價額ヲ記載シテハイケナイ、斯ウ云フノデアリマスカラ、先程申述ベシタ通リニ第三十四條ニ比シテ更ニ嚴格ナモノト申シテ差支ナイダラウト思フノデアリマス、第三點ノ減損補填基金ノ

問題ニ付テ申述ベマシタ所ニ依ツテ御諒承
要スルニ第二百八十五條ト雖モ交換價額ニ
依ルコトハ勿論デアリマス、併シ其ノ交換
價額ガ偶、製作價額ヨリモ上ツテ居リマス
ル場合、其ノ上ノ方ノ値段ヲ付ケテハイケ
ナ、製作價額ト云フヨリ低キ價額デ以テ
抑制シテ之ヲ記載スペキモノデアルト云フ
コトヲ明カニシタモノト御諒承ヲ願ヒタイ
ノデアリマス

○山隈康君 チヨット速記ヲ止メテ……

○委員長(山岡萬之助君) 速記ヲ止メ
テ……

〔速記中止〕

○委員長(山岡萬之助君) ソレデハ速記ヲ
始メテ……次ハ第七章解散ヲ議題ト致シマ
ス、政府ノ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(大森洪太君) 第七章ハ解散ニ
關スル規定ヲ網羅シタモノデアリマスルガ、
第六十九條ノ第一項ハ解散ノ事由ヲ此處ニ
列記致シテ居リマス、是ハ丁度商法中改正
法律案ノ株式會社ニ關スル規定ト略、同様
デアリマスルガ、此ノ第五號ノ「社員ガ一人
ト爲リタルコト」ノ問題デアリマス、是ハ
御承知ノ通リニ株式會社ニ於キマシテハ解

散ノ事由トハシナカツタノデアリマス、併シ
有限會社ニ於テハ之ヲ解散ノ事由ト致シタ
ノデアリマシテ、其ノ理由ハ有限會社ノ設
立ガ簡單デアリマスカラシテ、之ヲ得テ潛
脱的ニ株式會社ノ實質ヲ備ヘルヤウナモノ
ガ有限會社ニナラウトスル虞ガアリ得ルノ
デアリマス、ソレ等ニ付キマシテハ前々回
以來申述ベマシタ種々ノ規定ヲ以テ之ニ臨
ンデ居ルノデアリマスガ、矢張リソレト似タ
趣旨カラ致シマシテ、個人デアルカ有限會
社・デアルカト云フヤウナコトガ甚大分ラナ
イ場合ガ生ジ得ル虞ガアリマス、デアリマ
スルカラ、有限會社ニ付テハ所謂一人會社
ハ認メナイコトニシタ方ガ宜クハナイカト
云フヤウナ趣旨カラ、此ノ規定ガ置カレタ
次第デアリマス、第二項ハ社員總會ノ決議
デ解散ヲ致シマスル場合ニ、其ノ解散ノ方
法ハ特別決議ニ依ラナケレバナラナイト
云フコトヲ明カニシタノデアリマシテ、
是亦株式會社ニ於ケルト同趣旨デアリマ
ス、第七十條ハ會社ノ繼續ノ場合デアリマ
ス、是ハ丁度商法中改正法律案ノ第四百六
條、之ガ第一項ガ之ニ該當致シマス、又商
法中改正法律案ノ第九十五條第二項、
是ガ本條ノ第二項ニ該當ヲスル譯デアリマ
ス、是等ノ繼續ノ途ヲ開イタノデアリマシ

テ、有限會社ニ矢張リ是ガ必要デヤナイカ
會社ノ繼續ノ規定デアリマシテ、會社ノ繼
續ニ付キマシテ現行法ニ付テハ此ノ點ニ關
スル明確ナ規定ガナカッタガ爲ニ、解散ノ登
記ヲシタ後ニ會社ノ繼續ガ出來ルカドウカ
ト云フコトガ疑問ニナッテ居ツタノデアリマ
ス、ソレヲ商法中改正法律案デハソレハ出
來ルノデアル、デアリマスルカラ、清算中
如何ナル機會ニ於テモ會社ノ繼續ガ出來ル
ノデアル、唯性質上當然ニ清算ガ結了シマ
スレバ、是ハ出來マセヌケレドモ、其ノ以
前ナラバ何時デモ出來ルト云フコトヲ明カ
ニ致シタ次第デアリマス、矢張リ其ノ關係
ハ有限責任會社ニ付テモ同様デアリマス、
即チ第七十一條ノ規定ヲ置イタ次第デアリ
マス、第七十二條ハ清算人タルベキ者ヲ定
同様ノ規定デアリマス、是亦商法中改正法律
案ノ第四百十七條即チ株式會社ニ於ケルト
デアリマシテ、是ハ原則トシテ出資口數ニ
應ジ、即チ按分主義ヲ採ルコトニ致シマシ
タ、是ハ丁度利益配當ニ於キマシテ本案ノ
第四十四條ガ矢張リ按分主義ヲ原則ト致シ

株式會社ニ付テモ商法中改正法律案第四百二十五條ノ本文ト同様デアリマス、是ハ有限會社ノ利益配當ニ付テモ申述ベタ所ニアリマスルガ、此ノ有限會社ニ付キマシテハ優先株、又後配株、斯ウ云フヤウナモノヲ認メマセヌケレドモ、定款デ此ノ按分主義ニ對シテ別段ノ定ヲ爲シ得ルコトヲ此ノ第七十三條デ認メテ居ルノデアリマス、種類的ニ優先株又後配株ト云フコトハ出來マセヌケレドモ、或個々ノ社員ニ對シテハ按分主義以上ノ利益ヲ與ヘルトカ、或ハソレ以下ニ不利益ヲ及スト云フコトハ定款ノ自由デアリマス、但シ解釋ト致シマシテ、或特定ノ社員ニ殘餘財產ヲ全然與ヘナイト云フ約束、是ハ出來ナイカト存ズルノデアリマス、第七十四條ハ清算人ノ解任ニ關スル規定デアリマシテ、商法中改正法律案ノ第四百二十六條、即チ株式會社ニ關スル規定ト同様デアリマス、唯多少變ツテ居リマスノハ第二項デアリマシテ、重要ナ事由ガアリマスレバ、裁判所ハ監査役ノ請求ニ依リ又ハ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトガ出來ルコトニナツテ居ルノデアリマス、株式會社ニ付テハ御承知ノ通リニ各株主中力ヲ斯様ナ解任ノ請求ハ出來ナイノデアリマシテ、株主總會ノ決議デ此ノ請求ヲスルコ

算人ガアリマシタ場合ニ於ケル其ノ業務執行ノ方法ニ關スル規定デアリマス、第二百二十九條第一項、第三項ハ清算人ノ會社代表ニ關スル其ノ方法ノ規定デアリマス、第一百三十一條ハ殘餘財產ノ分配ニ付テノ規定デアリマンテ、假分配ノ便法ヲ認メタモノデアリマス、第百三十四條ハ清算結了ノ登記ニ關スル規定デアリマス、第一百四十條乃至第百四十二條ハ設立ノ取消ノ訴、詐害的設立ノ取消ノ訴、此ノ二ツニ關スル規定デアリマス、第四百十八條乃至第四百二十四條ハ清算人ノ届出ノ義務、書類ノ承認作成ヲ求ムルコトニ關スルモノ、書類ヲ監査役ニ提出スルコトニ關スルモノ、ソレカラ債權申出ノ催告及其ノ公告關係ノ規定デアリマス、尙此ノ債權申出ノ催告及公告デアリマスガ、是ハ固ヨリ債權者保護ニ關スル規定デアリマシテ、此ノ公告ニ付キマシテハ、是ハ此ノ八十八條ニ依リマシテ其方法ヲ明カニ致シテ居マス、其ノコトハ本案八十八條ニ付テ申述ベマスルガ、屢々申上ゲマシタ通リニ、有限會社ハ其ノ營業コソ大規模ニヤリマセウケレドモ、其ノ組織ナリ、管理ナリハ内輪デアリマシテ、小規模デアリマス、デアリマスルカラ、公告ト云フコトヲ強ヒテハ居リマセヌケレドモ、此ノ債權者保護ニ對

スル關係ニ付テハ矢張リ株式會社等ト同ジ
ク公告ヲ必要ト致シマス、從ツテ其ノ方法ニ
付テ規定ヲスル必要ヲ生ジタノデアリマシ
テ、ソレハ即チ此ノ案ノ八十八條ニナッテ居
ル次第デアリマス、尙第四百二十七條乃至
四百二十九條デアリマスガ、是ハ清算終了
ニ付テノ總會ナリ、設立無効ノ訴ナリ、又
清算終了後ノ書類ノ保有ニ關スル規定デア
リマシテ、是等ノ合名會社、株式會社ニ關
スル規定ヲソレヲ其ノ儘有限會社ニ持ツテ
來レバ宜シイト考ヘタ次第デアリマシテ、
第一項デアリマスルガ、第一項ハ本案ノ條
文及商法中改正法律案ノ條文ヲ準用シテ居
ルノデアリマス、第二十八條ハ書類備置ノ
義務ニ付テノ規定デアリマス、是ガ取締役
ニ付テ規定ヲサレテ居リマスカラ、同様ノ
コトヲ以テ清算人モ律スル必要ガアルト云
場合ノ其ノ制限ニ關スル規定デアリマス、
第三十一條ハ取締役ニ對スル訴ニ付テノ少
數社員權ニ關スル規定デアリマス、第三十
五條ハ社員總會ノ招集ニ關スル規定デア
リ、第四十條第一項第四號第二項ハ取締役
ノ任務懈怠ノ場合ノ其ノ責任ノ免除ノ制
限ニ關スル規定デアリマシテ、是等取締役

ニ關スル規定ヲ清算人ニモ持ッテ來ル必要ヲ感ジタ次第アリマス、ソレカラ以後ハ商法中改正法律案ノ規定アリマシテ、第二百三十六條乃至第二百三十八條ハ株主總會招集方法ニ關スル規定、ソレカラ少數株主ノ總會招集ニ關スル規定、検査役ノ選任ニ關スル規定デアリマス、第二百四十四條第二項ハ議事錄作成ニ付テノ手續規定デアリマス、第二百四十七條ハ總會ノ決議取消ノ訴ニ付テノ規定デアリマス、第二百四十九條、第二百五十四條第二項又同様デアリマス、第二百五十八條ハ取締役ノ員數ノ缺ケタ場合ノ措置ノ規定デアリマス、第二百六十一條ハ取締役ノ會社代表ニ付テノ規定デアリマス、第二百六十六條ハ取締役ノ任務懈怠ノ場合ノ責任ノ規定デアリマス、第一百六十七條ハ取締役ニ對スル訴提起ニ關シテノ規定デアリマス、第二百六十八條第二項乃至第五項ハ、右申述ベマシタ訴ニ付テノ手續ニ關スル若干ノ規定デアリマス、第二百六十九條乃至第二百七十二條ハ取締役ニ對スル報酬ノ規定又取締役ノ代行者等ニ關スル規定デアリマス、第二百七十四條ハ、取締役ガ監査役ニ對シテ報告ヲスル、或ハ又監査役トノ關係ニ付テノ規定デアリマス、第二百八十二條ハ書類ヲ總會ニ提出スル義務ニ關

スル規定デアリマスルシ、第二百八十三條
第一項ハ之ニ關聯致シマシタ其ノ後ノ手續
ノ規定デアリマス、第二百八十四條ハ書類
ノ承認ト責任免除トノ關係ヲ規定シタモノ
デアリマス、以上孰レモ取締役ニ關スル規
定デアリマシテ、矢張リ之ヲ清算人ニ持ッテ
來ル必要ヲ感ジタ次第デアリマス、尙解散
ニ付テ最後ニ申述ベタイノデアリマスルガ、
是ハ既ニ一應申上ゲタ處デアリマスルガ、
株式會社ニ付キマシテ商法中改正法律案ニ
於キマシテハ、會社ノ整理及特別清算ト云
フ重要ナル新設規定ヲ作ッタノデアリマシ
テ、是ガ商法中改正法律案ノ一つノ重要ナ
ル改正ノ要點デアリマシタ、併シ有限會社
ニ付キマシテ其ノ必要ナシト存ジタノデア
リマシテ、從シ會社ノ整理、特別ノ清算ニ
關スル規定ハ有限會社ニハ其ノ適用ナキモ
ノト御了承願ヒタイノデアリマス

○委員長(山岡萬之助君) 繕イテ第八章ノ
外國會社ノ御説明ヲ伺ヒマセウ

○政府委員(大森洪太君) 第八章ノ外國會
社ニ關スル規定ハ、是ハ極メテ簡單デアリ
マス、即チ商法中改正法律案ニ於キマシテ
外國會社ニ關スル規定ガ數箇條アルノデア
リマス、其ノ數箇條ヲ殆ド其ノ儘有限會社
ニ付テ規定ヲシタノデアリマシテ、是ハ外

國會社ニ付テ既ニ申述ベタ處デアリマスル
カラ、此處デ重ネテ申上ゲル必要モナイカ
ノ規定デアリマス、唯商法中改正法律
ト存ズルノデアリマス、唯商法中改正法律
案ノ中デ、外國會社ニ關スル規定中、第四
百八十三條ノ準用ダケヲ除イタノデアリマ
ス、此ノ第四百八十三條ハ、外國會社ガ日
本ニ於キマシテ株券ヲ發行スルトカ若シク
ハ債券ヲ發行スルトカノ場合ニ於ケル規定
デアリマス、然ルニ有限會社ニ付キマシテ
ハ株券ノ發行又ハ債券ノ發行ト云フコトガ
ナイノデアリマシテ、此ノ規定ダケハ全ク
必要ガ無イノデアリマス、デアリマスルカ
ガアルガ爲ニ結局總會デ解散ノ決議ヲ爲シ
タモノト見ルノデアリマス、然ルニ一旦總
會ニ依ッテ解散ノ決議ヲシテモ、更ニ或事情
レバ、當然會社ガ繼續スル、斯ウ云フ場合
ニ、人的要素デアル相信ジタル者ノ間ニ出
來ル有限會社デアッテ、サウシテ其ノ事業ノ
目的ニ對シテ確信ヲ持タナイ者、若シクハ
テ解散ガ出來ル、其ノ場合ハ七十條ニ依リマ
シテ、四十八條ノ特別ノ決議ニ依ッテ會社ノ
繼續ガ出來ルト云フ趣旨ニ相成ッテ居リマ
スルガ、之ニ此ノ改正商法ノ九十五條ノ但
書ヲ準用シナカツタ理由ハドウ云フモノデア
リマセウカ、即チ但書ニハ「同意ヲ爲サザ
リシ社員ハ退社シタルモノト看做ス」此ノ

國會社ニ付テ既ニ申述ベタ處デアリマスル
カラ、此處デ重ネテ申上ゲル必要モナイカ
ノ規定デアリマス、唯商法中改正法律
ト存ズルノデアリマス、唯商法中改正法律
案ノ中デ、外國會社ニ關スル規定中、第四
百八十三條ノ準用ダケヲ除イタノデアリマ
ス、此ノ第四百八十三條ハ、外國會社ガ日
本ニ於キマシテ株券ヲ發行スルトカ若シク
ハ債券ヲ發行スルトカノ場合ニ於ケル規定
デアリマス、然ルニ有限會社ニ付キマシテ
ハ株券ノ發行又ハ債券ノ發行ト云フコトガ
ナイノデアリマシテ、此ノ規定ダケハ全ク
必要ガ無イノデアリマス、デアリマスルカ
ガアルガ爲ニ結局總會デ解散ノ決議ヲ爲シ
タモノト見ルノデアリマス、然ルニ一旦總
會ニ依ッテ解散ノ決議ヲシテモ、更ニ或事情
レバ、當然會社ガ繼續スル、斯ウ云フ場合
ニ、人的要素デアル相信ジタル者ノ間ニ出
來ル有限會社デアッテ、サウシテ其ノ事業ノ
目的ニ對シテ確信ヲ持タナイ者、若シクハ
テ解散ガ出來ル、其ノ場合ハ七十條ニ依リマ
シテ、四十八條ノ特別ノ決議ニ依ッテ會社ノ
繼續ガ出來ルト云フ趣旨ニ相成ッテ居リマ
スルガ、之ニ此ノ改正商法ノ九十五條ノ但
書ヲ準用シナカツタ理由ハドウ云フモノデア
リマセウカ、即チ但書ニハ「同意ヲ爲サザ
リシ社員ハ退社シタルモノト看做ス」此ノ

國會社ニ付テ既ニ申述ベタ處デアリマスル
カラ、此處デ重ネテ申上ゲル必要モナイカ
ノ規定デアリマス、唯商法中改正法律
ト存ズルノデアリマス、唯商法中改正法律
案ノ中デ、外國會社ニ關スル規定中、第四
百八十三條ノ準用ダケヲ除イタノデアリマ
ス、此ノ第四百八十三條ハ、外國會社ガ日
本ニ於キマシテ株券ヲ發行スルトカ若シク
ハ債券ヲ發行スルトカノ場合ニ於ケル規定
デアリマス、然ルニ有限會社ニ付キマシテ
ハ株券ノ發行又ハ債券ノ發行ト云フコトガ
ナイノデアリマシテ、此ノ規定ダケハ全ク
必要ガ無イノデアリマス、デアリマスルカ
ガアルガ爲ニ結局總會デ解散ノ決議ヲ爲シ
タモノト見ルノデアリマス、然ルニ一旦總
會ニ依ッテ解散ノ決議ヲシテモ、更ニ或事情
レバ、當然會社ガ繼續スル、斯ウ云フ場合
ニ、人的要素デアル相信ジタル者ノ間ニ出
來ル有限會社デアッテ、サウシテ其ノ事業ノ
目的ニ對シテ確信ヲ持タナイ者、若シクハ
テ解散ガ出來ル、其ノ場合ハ七十條ニ依リマ
シテ、四十八條ノ特別ノ決議ニ依ッテ會社ノ
繼續ガ出來ルト云フ趣旨ニ相成ッテ居リマ
スルガ、之ニ此ノ改正商法ノ九十五條ノ但
書ヲ準用シナカツタ理由ハドウ云フモノデア
リマセウカ、即チ但書ニハ「同意ヲ爲サザ
リシ社員ハ退社シタルモノト看做ス」此ノ

國會社ニ付テ既ニ申述ベタ處デアリマスル
カラ、此處デ重ネテ申上ゲル必要モナイカ
ノ規定デアリマス、唯商法中改正法律
ト存ズルノデアリマス、唯商法中改正法律
案ノ中デ、外國會社ニ關スル規定中、第四
百八十三條ノ準用ダケヲ除イタノデアリマ
ス、此ノ第四百八十三條ハ、外國會社ガ日
本ニ於キマシテ株券ヲ發行スルトカ若シク
ハ債券ヲ發行スルトカノ場合ニ於ケル規定
デアリマス、然ルニ有限會社ニ付キマシテ
ハ株券ノ發行又ハ債券ノ發行ト云フコトガ
ナイノデアリマシテ、此ノ規定ダケハ全ク
必要ガ無イノデアリマス、デアリマスルカ
ガアルガ爲ニ結局總會デ解散ノ決議ヲ爲シ
タモノト見ルノデアリマス、然ルニ一旦總
會ニ依ッテ解散ノ決議ヲシテモ、更ニ或事情
レバ、當然會社ガ繼續スル、斯ウ云フ場合
ニ、人的要素デアル相信ジタル者ノ間ニ出
來ル有限會社デアッテ、サウシテ其ノ事業ノ
目的ニ對シテ確信ヲ持タナイ者、若シクハ
テ解散ガ出來ル、其ノ場合ハ七十條ニ依リマ
シテ、四十八條ノ特別ノ決議ニ依ッテ會社ノ
繼續ガ出來ルト云フ趣旨ニ相成ッテ居リマ
スルガ、之ニ此ノ改正商法ノ九十五條ノ但
書ヲ準用シナカツタ理由ハドウ云フモノデア
リマセウカ、即チ但書ニハ「同意ヲ爲サザ
リシ社員ハ退社シタルモノト看做ス」此ノ

ニスルベキデアルカト云フコトハ確カニ考
慮ノ餘地ガアルト信ズルノデアリマス、成
ル程御指摘ニ相成リマシタ通リニ有限會社
ノ社員ハ餘程人的要素ノ色彩ハ帶ビテハ居
リマスルケレドモ、矢張リ先程御述べニナ
リマシタヤウニ無限責任ハ負ハナイデアリ
マシテ、單純ナル有限責任ヲ負フニ止ルノ
デアリマス、典型的ノ人的會社デアリマス
ルナラバ、是ハ退社ヲセシメナケレバ不都
合デアリマセウ、嫌ヤクナガラ其ノ會社
ト運命ヲ共ニシテ而モ無限責任ヲ負フト云
フコトニナルノデアリマスカラ、ドウシテ
モ退社ノ途ヲ開カナケレバナリマセヌケレ
ドモ、株式會社ナリ有限會社ナリガ退社ト
云フコトニ致シマスルノハ、是ハ寧ロ不適
當デハナイカト存ジタ次第デアリマス、サ
ウシデ此ノ案ニ付テ他ノ場合ニモ勿論退社
ハ認メテ居ナイノデアリマス、之ヲ要スル
ニ、此ノ點ニ付テ株式會社ト同様ニスルカ、
合名會社ト同様ニスルカト云フ問題デアリ
マシテ、全ク人的會社デハナイ、併シ人的
會社ノ色彩ヲ帶ビテ居ルト斯ウ云フノデア
リマスカラ、研究上疑問ノ餘地ハアリマセ
ウ、併シ私共ト致シマシテ種々研究ノ結果、
之ヲ株式會社ト同様ニスルコトヲ是ナリト
信ジタ次第デアリマス

○山隈康君 只今政府委員ノ御説明ハ能ク
分リマシタ、是レ以上ハ意見ノ相違デアリ
マスルカラ質疑ハ是レデ止メマス、次デ第
七一條ニ付テ、是ハ法文自體ニ疑義ガア
ル譯デモアリマセヌシ、又法文ガイケナイ
ト云フ意味デモアリマセヌ、立法上ノ理由
ヲ簡單ニ伺ヒタイト思ヒマス、現行商法ト
ハ異ツテ改正商法ニ據リマスレバ、登記ハ會
社ノ成立條件ト相成ツテ居ルヤウデアリ
マス、ソコデ設定登記ニ依ツテ會社ガ成
立スル、解散ノ登記ニ依テ會社ハ當然消
滅スベキモノデアリマス、ソコデ本當ノ
純理カラ言ヘバ、一旦解散ノ登記ヲ致シ
マスレバ、既ニ會社ハ消滅スル、更ニ繼續
ノ決議ヲシテ其ノ後ニ會社ガ登記ヲシタ時
ハ、之ヲ純然タル成立條件トスレバ、其ノ
登記ヲシタ時ニ新タル會社トスルノガ成
立條件ノ趣旨ニハ適合スルヤウデアリマス
ルガ、是ハ併シ實際ノ事情ニ適セズ、便宜
上此ノ規定ヲ設ケタト云フ御趣旨ト解釋ス
ベキモノデアリマスカ、又其ノ他ニ立法上
ノ理由ガアレバ承ツテ置キタイノデアリマ
ス

○政府委員(大森洪太君) 大體ニ於テ御說
ノ通リデアルト考ヘルノデアリマス、解散
ノ會社ノ本質ニ付キマシテハ、從ツテ大體ニ於キマシ
テ、罰則ノ立テ方モ商法會社編ニ於ケル罰
則ト同趣旨ノモノヲコチラニ持ツテ參ツテ矢
ズ、兎ニモ角ニモ解散ノ登記ヲシタ然後
ニ會社ガ更ニ繼續スルト云フコトデアルカ
ラ、是ハ極メテ異例ノコトデハアリマセ
ウ、併シ解散ノ登記ニナリマシテモ、若シ
會社ノ繼續ト云フコトガアルナラバ、其ノ
營業能力ノ復活セラル、コトアルベシト云
フ一種ノ條件付ノヤウニ考ヘラルベキモノ
デアルカト思フノデアリマス、サウンシテ之
ヲ何ガ故ニ其ノ學說ナリ慣例ノ如何ニ拘ラ
ズ別種ノ會社ニシカナツカト云フ御尋ニ
對シマシテハ、ソレニ牽聯シテ御述ニナリ
マシタ所ト全ク同様デアリマシテ、之ヲ達ツ
タ會社ニ致シマスルナラバ、其ノ權利義務
ニ持ツテ參ツタノデアリアスルガ、其ノ刑
期、金額、刑罰ノ量ニ至リマシテハ、中ニ
ハ若干本會社ノ罰則ハ引下ダモノモゴザ
イマス、ソレハ性質ハ本會社ハ株式會社ニ
ハ似テ居リマスルガ、株式會社ト異ナリマ
シテ、社員ノ數ハ株主ノ數ヨリモ非常ニ少
イ、或ハ社債金ト云フモノハナイ、若シク
ハ他ノ會社ガ一般社會ニ對スル關係ニ於

「第九章罰則」全體ヲ問題ニ供シマス
○政府委員(松阪廣政君) 罰則ニ付キマシ
テ、私ヨリ簡單ニ御説明申上ゲマス、有限
會社ノ罰則ニ付キマシテハ、本會社ノ性質
ガ合名會社或ハ合資會社ヨリモ、寧ロ株式
會社又ハ株式合資會社ニ類似スル性質ヲ多
分ニ持ツテ居リマス、從ツテ大體ニ於キマシ
テ、罰則ノ立テ方モ商法會社編ニ於ケル罰
則ノ罰則中ニハ株式會社ニ特有ノモノガゴ
ザイマス、例ヘバ株式ノ募集ニ當ツテノ虛偽
ノ文書ヲ公知シタカ、或ハ株式ノ引受ニ
假裝ノ引受或ハ假裝ノ讓渡ヲスルト云フヤ
ウナ行爲ヲ出シテ居リマスガ、株式ニ於テ
本會社ニ左様ナ規定ノアルベキ筈ノナイノ
ハ當然デアリマス、左様ナモノヲ除キマシ
テ、大體株式會社ノ罰則其ノモノヲコチラ
ニ持ツテ參ツタノデアリアスルガ、其ノ刑
期、金額、刑罰ノ量ニ至リマシテハ、中ニ
ハ若干本會社ノ罰則ハ引下ダモノモゴザ
イマス、ソレハ性質ハ本會社ハ株式會社ニ
ハ似テ居リマスルガ、株式會社ト異ナリマ
シテ、社員ノ數ハ株主ノ數ヨリモ非常ニ少
イ、或ハ社債金ト云フモノハナイ、若シク
ハ他ノ會社ガ一般社會ニ對スル關係ニ於

テ、株式會社ヨリハ餘程異ナルモノガアリマスルノデ、ソレ等ノ點ヲ考慮致シマシテ、懲役或ハ罰金ノ金額ヲ若干引下ゲタモノモアルノデアリマス、主ナル條文ニ付テ極メテ簡單ニ申上ゲマスガ、第七十七條ハ、會社ノ重役又ハ高級使用人ニ對スル特別背任罪ノ規定デアリマスガ、是ハ商法第四百八十六條ニ當ルモノデアリマスガ、唯商法第四百八十六條デハ七年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金トナツテ居リマスガ、之ヲ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ト云フコトニ致シタ點ガ相違スル點デゴザイマス、次ニハ第七十八條デアリマスガ、是ハ商法ノ四百八十九條ニ當ルベキモノデアリマス、現行法ニモ二百六十一條ニ大體同一ノ刑罰ヲ規定致シテ居リマスガ、其ノ刑期、金額ニ至リマシテ、商法ヨリハ幾分下ゲマシテ、商法デハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金トナツテ居リマスノヲ、三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ致シマシタ、現行法デハ一年以下ノ懲役若シクハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ト云フコトニナツテ居リマスガ、是ヨリハ幾分重クナツテ居リマス、次ニハ七十九條デアリマスガ、是ハ出資ノ拂込ヲ假裝スル預合行爲ヲ處罰スル規定デアリマス、商法第四百九十一

條ニ規定致シテ居ルノト同一デアリマシテ、是又刑期、金額ヲ幾分引下ゲテ居リマス、其ノ次ニハ第八十一條及第八十二條何レモ瀆職罪ノ規定デアリマスガ、八十一條ハ商法ノ四百九十三條ニ該當スルモノデアリマス、八十二條ハ商法ノ四百九十四條ニ當ルベキモノデアリマス、是ハ何レモ刑期、金額ハ商法ト同ジデアリマス、其ノ次ニハ第八十五條デアリマス、是ハ過料ノ制裁規定デアリマスガ、商法ノ四百九十八條ニ當ルモノデアリマシテ、過料ノ額ハ同額ニ致シテ置キマシタ、第一號ヨリ第二十一號迄ゴザイマスガ、是亦株式會社ノ方ノ過料ニ付キマシテハ株式會社特有ノモノガアリマスノデ、有限會社ハ幾分項目ハ減ツテ居リマスガ、大體同趣旨デゴザイマス、甚ダ簡單デゴザイマスガ、御説明ヲ終リマス○山隈康君 是ハ詰ラヌ御尋デゴザイマスガ、御配付ニナリマシタ有限會社法案ノ説明中ニ、何ダカ有限會社ハ株式會社ヨリモ寧口合名會社ニ類似スルカラト云フヤウナミテ、株式會社ニ類似シテ居リマスガ、是モアルヤウデアリマス、只今政府委員ノ御説明ニ依リマスト、株式會社ニ類似シテ居ルト云フ御説明デアツテ、是ハ有限會社ノ本質ニ付テ、之ガ株式會社ニ近接スルモノデアルト云フ越旨ハ從來申述べ來タ通リデアリマス

○山隈康君 只今ノ合名會社ニ類似スルカ、若シクハ株式會社ニ類似スルカラト云フコトハ見解上ノ問題ダト思ヒマスルカラ、是レ以上御尋致シマセヌ、罰則中ニ此ノ背任行爲ニ關スル規定ガアリマシテ、是ハ文章カラ致シマシテモ、法文ノ體裁カラ致シマシテモ、制裁カラ致シマシテモ、刑法ノ背任ト同様ノ規定デアリマス、唯是ハ會社ヲアルト思フノデアリマスカラ、ドウモ兩方

○政府委員(大森洪太君) 且今御指摘ニナオ並ビニナツタ政府委員ノ方テ御意見ガ異ツテハ、甚ダ私ハ迷フノデアリマスガ、尙ホカト思フノデアリマス、御配リヲ致シマシテ説明書ノ第五枚目ノ裏デアリマス、是ハアリマス、八十二條ハ商法第六號ヘ寧口合名會社ニ關スル商法第六號迄ゴザイマスガ、其ノ理由ノ三行目ニ「第五號及第六號ハ寧口合名會社ニ近イモノデアル、寧口或意味ニ於テハ株式會社ノ一種ト考ヘテモ宜イ位ノモノニアラウト存ジテ居ルノデアリマシテ、其ノコトハ變更ラシテ居ナイ積リデアリマス、唯株式會社ニ比シマスレバ合名會社ノ色彩ヲ帶ビテ居ル、詰リオ互ニ信賴スル少數ノ社員カラ組織セラレテ居ルト云フ點ニ於テハ合名會社ノ色彩ヲ有ツテ居リマスルケレドモ、併シ有限責任デアルト云フ最モ大イナル點ニ於テ株式會社ト同様デアリマスリマスルカラ、恐ラクハ多々間違ガアラウカト存ズルノデアリマス、必要ナ場合ニ補致シマシテモ倉卒ノ間ニ書上ゲタモノデアリマスガ、大體同趣旨デゴザイマス、甚ダ簡單デゴザイマスガ、御説明ヲ終リマス○山隈康君 是ハ詰ラヌ御尋デゴザイマスガ、御配付ニナリマシタ有限會社法案ノ説明中ニ、何ダカ有限會社ハ株式會社ヨリモ寧口合名會社ニ類似スルカラト云フヤウナミテ、株式會社ニ類似シテ居リマスガ、是モアルヤウデアリマス、只今政府委員ノ御説明ニ依リマスト、株式會社ニ類似シテ居ルト云フ御説明デアツテ、是ハ有限會社ノ本質ニ付テ、之ガ株式會社ニ近接スルモノデアルト云フ越旨ハ從來申述べ來タ通リデアリマス

○山隈康君 只今ノ合名會社ニ類似スルカ、若シクハ株式會社ニ類似スルカラト云フコトハ見解上ノ問題ダト思ヒマスルカラ、是レ以上御尋致シマセヌ、罰則中ニ此ノ背任行爲ニ關スル規定ガアリマシテ、是ハ文章カラ致シマシテモ、法文ノ體裁カラ致シマシテモ、制裁カラ致シマシテモ、刑法ノ背任ト同様ノ規定デアリマス、唯是ハ會社ヲアルト思フノデアリマスカラ、ドウモ兩方

デアリマス、即チ商法中改正法律案ノ第百條第一項ニ該當シマス場合、及ビ其ノ第四百二十一條第一項ニ該當シマスル場合、詰リノ場合、斯ウ云フヤウナ場合ニ會社債権者ニ其ノ旨ヲ公告スルト云フコトニナッテ居リマスガ、公告ノ方法ニ付テ規定ヲ設クル條ニ依リマシテ、ソレハ裁判所ノ爲スペキ登記事項ノ公告ト、同一ノ方法ヲ以テシナケレバナラナイト云フコトヲ、明カニ致シマシタ、蓋シ有限會社ニ付キマシテハ、定款ニ會社ガ公告ヲ爲ス方法ト云フヤウナモノヲ、記載事項トシテ強制シナカツタガ爲ニ、此ノ規定ヲ必要トシタ所以デアリマス、第八十九條ハ有限會社ノ本質論ト牽聯スル問題デアリマスルガ、實ハ是ハ唯單純ナル定義ノ問題デアルカモ知レナイノデアリマス、先ニモ申述ベマシタ通り、有限會社ヲ商法中ノ會社、即チ第五種ノ會社トスベキデアルカ、或ハ商法以外ニ之ヲ規定致シマシテ、別個ノ法典トスベキモノデアルカト云フコトニ付テハ、種々議論ガアツタノデアリマス、併シ法制審議會ニ於キマシテモ、別個ノ法典、トルコトガ寧ロ便宜デアルト、斯ウ云フコトニ相成リマシテ、其ノ

主義ニ從ツタノデアリマス、從ツテ此ノ有有限會社法案ハ商法ヨリモ別個ノ法律ニナッテ居リマスルガ爲ニ、有限會社自身ハ商法上ノ會社ト云フコトニハナツテ居ナイノデアリマス、唯商法ニ關スル規定ガ多ク準用サレテ居リマシテ、其ノ實質ニ於テ商法上ノ會社ト殆ド擇ブ所ガナイノデアリマスルケレドモ、規定ノ體裁ハソレトハ違フモノニナツテ居リマス、然ルニ商法以外ノ法典ニ於キマシテ、種々ノ場合ニ會社ト云フモノヲ規定シテ居リマス、其ノ會社ニハ矢張リ有限公司モ同様ニ認メラレナケレバナラナイノデアリマシテ、商法上ノ會社デハアリマセヌケレドモ、他ノ法律ノ適用ノ關係ニ於テハ、商法上ノ會社ト同一ニ取扱ッテ貰ハナケレバナラナイノデアリマス、其ノ關係ヲ第八十九條デ明カニシタ次第デアリマス、次イデ附則デアリマスルガ、御許ヲ得テ此ノ際續イテ申述ベタイト存ズルノデアリマス、是ハ施行ノ期日ヲ勅令ヲ以テ定ムルコトニ致シタノデアリマス、商法中改正法律案ノ條文ヲ唯準用致シテ居リマスルカラ、商法中改正法律案ヨリモ先ニ之ヲ施行スルコトハ、其ノ關係上不可能デアリマス、デアリマスルカラ、今ノ考ト致シマシテハ、商法中改正法律案ト少クトモ同時ニ施行致

法中改正法律案ニ付キマシテハ、準備期間ヲ必要ト致シマスルカラ、先づ一年位ハ置キマシテ、一年間ノ準備期間ガ終リマシタ時ニ、相共ニ施行シタイト今日デハ考ヘテ居ル次第アリマス

○委員長(山岡萬之助君) 何カ御質問ガアリマシタラ此ノ際願ヒマス

○森平兵衛君 私小委員會ニ一二回闕席致シマシタノデ、質問ヲ御終了ニナルノデアリマスレバ、少シ御許ヲ願ヒマシテ、御伺シテ見タイ思ヒマス、若シモ私ノ質問ガ從來御答ニナツテ居リマスルヤウデシタラ、速記錄ニ於テ拜見致シマスルガ、今日速記錄ハマダ印刷ガ出來テ居リマセヌ爲ニ、ドウ云フコトガ質問ノ事項ニアッタカ分リマセヌノデ、暫ク御許ヲ願ヒマシテ、重複ノ分ハイツ何日ノ速記録ニ、ト云フコトニ依ツテ御答辯ヲ願ツタラ結構デゴザイマス、此ノ有限會社法案ノ説明ノ第八デアリマスガ、「現物出資及財産引受ニ付其ノ會社成立當時ノ實額ガ定款所定ノ價額ニ著シク不足スルトキハ設立當時ノ社員ハ連帶シテ之ガ墳補ノ責ニ任ズ」ト云フコトガアリマスガ、モノデアリマスルカ、極端ニ申セバ、五年

ジタ場合ハ、出資者ハ其ノ責任ヲ帶ビネバ
ナラヌノデアリマスカラ、是ハ矢張リ相當當
分相場ノ變動ニ依ッテ價額ノ減少スルコト
モアルノデアリマスガ、其ノ期間ヲ御明示
ヲ願ヒタイト思ヒマス

リマス

○森平兵衛君 能ク分リマシタガ、此ノ法律案デハ第十六條ニ、「五年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ免除スルコトヲ得ズ」斯ウ云フ原則トシテ書イテアリマスルカラ、之ヲ定款ニ非常ニ價格ノ高低ノ多イモノヲ出資スル場合ニ、定款デ若シモ此ノ五年ヨリ短イ期間ニ於テ、之ヲ免除スルト云フコトヲ明記致シマシタ所ガ、本條ニ是ガアリマスル以上ハ、所謂法律ニ規定シテアルコトデアリマスルカラ、定款デ定メテモ無效ニナル、斯ウ承知シテ宜シイノデアリマスカ

○政府委員(大森洪太君) 全ク御説ノ通りデアリマシテ、此ノ第十六條ハ强行法規デアリマスト云フコトニ御解釋ヲ願ヒタイノニ限ッテ、決議ノ様式ヲ二様ニ御制定ニナックモノデアリマスカ

○森平兵衛君 次ハ十三項ノ、決議ニハ通常決議ト特別決議ト二種アル、斯ウ云フクトデアリマスルガ、是ハ何ガ爲ニ有限會社ニ限ッテ、決議ノ様式ヲ二様ニ御制定ニナックモノデアリマスカ

○政府委員(大森洪太君) 此ノ御指摘ニナリマシタ第十三トシテ書キマシタ文句ガ甚ダ簡単ニ失シマスルガ爲ニ、先程矢張り御叱リヲ受ケタ點デモアリマスルガ、或へ誤解ヲ生ジタノデアラウト恐縮ニ存ズルノデ

マシテ、簡単ナ方法ニ依ル決議、即チ定足數ノ要ラナイ決議、嚴重ナル方法ニ依ル決議、即チ定足數ヲ要スル決議ノ二ツノ意味デアリマシテ、重要ナ事項ニ付テハ、定足數ヲ必要トスル特別決議ヲ經ナケレバナラナイト云フ趣旨ヲ明カニシタ次第デアリマス

ケル現状ニ付キマシ
合併、有限會社ト株
二種ニ限定シテ置ク
ジタ次第アリマス
○森平兵衛君 之ニ
一ツ此ノ外ニ法律デ
知ラヌガ、生命保険
スウ云フモノトノ、

テハ、有限會社同志ノ
式會社トノ合併、此ノ
方ガ適當デナイカト存
關聯致シマシテ、モウ
ドウ認メテ居リマスカ
ノ相互會社デアリマス、
有限會社ト云フモノノ
アリマ
合併ヲ
レバ今
ニ思フ
ルコト
社ト現
今日生
○森平

兵衛君 私ノ知ル所ニ依リマスルト、
命保険ノ、何ト申シマスカ、相互會
在ノ株式會社ノ生命保険トハ合併ス
テ得ト云フ特別例ガ設ケラレタヤウ
ノデアリマスガ、サウ云フ點カラ見
度ノ有限會社モ矢張リ相互會社トノデ
御認メニナツテ宜カラウト思フノデ
ス

會社トノ合併ハ、之ヲ認メナカツタノデアリマス、御承知ノ通リニ異種類ノ會社間ノ合併ト申シマスノハ、種々錯雜ナ問題ヲ生ズルノデアリマス、又實際ニ於テモ、左程廣クハ行ハレテ居ナイヤウデアリマス、而モ有限會社ハ、此ノ度新タニ是認セラル、會社デアリマスルカラ、是ガ段々ト發達ヲ致シマシテ、其ノ實情ニ依リマシテハ、或ハ他ノ種類ノ會社トノ合併ヲモ、廣ク認メルト云フコトニシタ方ガ、便宜デアルカモ知

ハ無限デアルカラ、
併出來ナイト云フ御
趣旨モ承リタイト思
○政府委員(大森洪士)
リマシテ、此ノ相互會社
マシテ、商法上ノ會社
取扱ハレテ居ル點ガ
シ其ノ最モ大ナルモ
關係カラ致シマシテ
少クトモ今日ニ於テ

斯ウ云フ有限會社ト合
趣旨デアリマスカ、御
ヒマス

トニシテ、有限會社ニ
徐ニソレヲ擴大シテ三
カ、斯様ニ存ジタ次第
○森平兵衛君 是以
ノ質問ハ是デ終了致
○男爵奥田剛郎君 逐
ザイマスカ

○委員長(山岡萬之助)
○男爵奥田剛郎君

ナリマスガ、有限會社

ノ發達ノ經過ヲ見テ、
行々ツカ方ガ宜クハナイ
弟デアリマス

マシテ、簡単ナ方法ニ依ル決議、即チ定足數ヲ要ラナイ決議、嚴重ナル方法ニ依ル決議、即チ定足數ヲ要スル決議ノ二ツノ意味デアリマシテ、重要な事項ニ付テハ、定足數ヲ必要トスル特別決議ヲ經ナケレバナラナイト云フ趣旨ヲ明カニシタ次第デアリマス

ケル現狀ニ付キマシ
合併、有限會社ト株
二種ニ限定シテ置ク
ジタ次第デアリマス
○森平兵衛君 之ニ
一ツ此ノ外ニ法律デ
知ラヌガ、生命保険
斯ウ云フモノトノ、
合併ハドウナルノデ
ノ會社ノヤウニ考ヘ
ヲ願ヒタイ

○政府委員(大森洪士)
併ハ未ダ之ヲ認メナ
願ヒタイノデアリマ
○森平兵衛君 ソレ
ハ無限デアルカラ、
併出來ナイト云フ御
趣旨モ承リタイト思
○政府委員(大森洪士)
リマシテ、此ノ相互會
マシテ、商法上ノ會計
取扱ハレテ居ル點ガ
シ其ノ最モ大ナルモ
關係カラ致シマシテ

テハ、有限會社同志ノ式會社トノ合併、此ノ方ガ適當デナイカト存
關聯致シマシテ、モウドウ認メテ居リマスカ
ノ相互會社デアリマス、
有限會社ト云フモノノアリマスカ、是ハ有限ルノデアリマス、御答
ヘ君) 相互會社トノ合
ト云フ趣旨ニ御承知ヲ
ス
ハ相互會社ト云フモノ
斯ウ云フ有限會社ト合
趣旨デアリマスカ、御
ヒマス

○森平兵衛君 私ノ知
今日生命保険ノ、何ト
社ト現在ノ株式會社ニ
ルコトヲ得ト云フ特別
ニ思フノデアリマスが
レバ今度ノ有限會社ニ
合併ヲ御認メニナツテ
アリマス

○政府委員(大森洪太
シタ通リニ、有限會計
セラル、其ノ當初デマ
合併ノ範圍ヲ適當ニ制
イカ、即チ有限會社ニ
ノ間ダケハ二種類間ニ
ケレドモ、其ノ他ニ
トニシテ、有限會社ニ
徐ニソレヲ擴大シテ乞
カ、斯様ニ存ジタ次第
○森平兵衛君 是以
ノ質問ハ是デ終了致シ
○男爵奥田剛郎君 逐
ザイマスカ

○委員長(山岡萬之助
○男爵奥田剛郎君

ト申シマスカ、相互會ノ生命保險トハ合併ス
別例ガ設ケラレタヤウカ、サウ云フ點カラ見
セ矢張リ相互會社トノ宜カラウト思フノデ
君) 先程モ申述ベマ
社ガマダ今日是デ是認
ノリマスルカラ、其ノ制限シタ方ガ宜クハナ
ニ最モ近イ株式會社ト
デモ合併ヲ認メマスル
ハ暫ク之ヲ及サナイコ
ノ發達ノ經過ヲ見テ、
行ツタ方ガ宜クハナ
シマシタ
上ハ申上ゲマセヌ、私
弟デアリマス

濟界ノ實情ニ鑑ミ云々トアリマスガ、此ノ經濟界ノ實情ニ鑑ミト云フノハドウ云フ利益ガアツテ此ノ規定ヲ設ケラレタカト云フコトニ、マダ大分疑ヒヲ持ツ向ガアリマスノソレカラ其ノ次ニ之ヲ商法上ノ會社トセズシテ、別箇ノ有限會社法案ト云フモノヲ提出サレタ理由ハ、法制審議會ニ於テ其ノ方ガ便宜ダト云フ趣旨デアツト云フ御説明デアリマシタガ、ソレハドウ云フ便宜ダクト云フコトヲ、具體的ニモウ少シ承レバ承リタイト思ヒマス。

○政府委員(大森洪太君) 御答ヲ致シマス、先づ第一點デアリマスガ、實業社會カラ大部分以前カラ此ノ要望ガ強カッタノデアリマスガ、其ノ要望ノ趣旨ヲ綜合致シマスルニ、御承知ノ通リニ今日經濟的ニ大イナル活動ヲ致サウト思ヒマスレバ、先づ會社ニ依ル式會社ニ於キマシテハ、株式ノ賣出ト云フノ外ハナイ、個人ノ力デニ當リ、或ハ組合組織ヲ以テ之ニ當ルト云フコトハ不十分デアルト云フコトハ申述ベル迄モナイノデアリマス、然ラバ會社ト致シマシテ如何ナル種類ノ會社ガ之ニ適當スルカ、商法上認メテ居リマスル四種類ノ會社ニハ種々其ノ特色ガアリマスカラ、其ノ選ブ所ニ從テ異ナリマセウケレドモ、今日ノ經濟社會ノ大體ノ傾向ヲ窺

ヒマスルト、有限責任ヲ骨子トシタ會社ト云フコトニ甚ダ重キヲ置イテ居ルヤウデアリマス、即チ自己ノ全財産ヲ蕩盡スル虞ヲ生ズルヤウナ無限責任ノ組織デアリマスト、勢ヒドウモ怯懦ニナルノデアリマスカラドウシテモ有限責任ト云フコトヲ骨子ニシテ有隣責任デハアルケレドモ、大資本ヲ擁シテ、ソレニ依ツテ仕事ヲシテ行カウ、斯ウ云フ機運ガ大分以前カラ強イノデアリマシテ、此ノ狀態ハ恐ラク長ク續クダラウト思フノデアリマス、果シテ左様ダト致シマスルナラバ、株式會社ガ此ノ組織ニ最モ適スルノデアリハ多數ノ社員、即チ株主ヲ持ツコトヲ通例ト致シテ居マシテ、ソレガ爲ニ多數ノ株主ガアルト云フコトヲ前提トスル規定ガ多々アルコト御承知ノ通リデアリマス、又株式會社ニ於キマシテハ、株式ノ賣出ト云フヤウナコトガアリマシテ、社員ノ異動ガ自由ニ生ジマスルカラシテ、其ノ點ニ於テ云フ問題ハ或ハ程度ノ問題デアルカモ知レマセヌケレドモ、此ノ程度ノ問題ガ自ラ本質的ノ問題トナリマシテ、有限責任會社ト云フ別箇ノ會社ヲ捨ヘル必要ガアルト云フデアリマスケレドモ、此ノ便宜ト御承知ヲ願ヒタイノスルカラ、全ク便宜ト御承知ヲ願ヒタイノデアリマスルガ、此ノ便宜ニハ相當ノ價值アルモノト私共ハ存ジテ居ルヤウナ次第デアリマス。

○委員長(山岡萬之助君) 他ニ別段御質疑ニ致シマシタコトハ全ク便宜デアリマシテ、理論上、觀念上、左様ニ致サナケレバナラナイ理由ハ少シモナイノデアリマス、然ラバ如何ナル便宜ガアルカト申シマスルト、カ、斯ウ云フ考ガ自然的ニ起ツテ來ルヤウデアリマス、是ガ即チ有限會社ノ特色デアリマシテ、御承知ノ「イギリス」法ニ於キマスル「プライヴエート・カンパニー」ニ致シテモ、「ドイツ」「フランス」其ノ他ノ國ニ於キマス所謂有限責任會社ニ致シマシテモ、大同小異ハアリマスルケレドモ、此ノ二點ニ付テ、先づ期セズシテ一致シタ基礎的ナ觀念デアラウカト存ズルノデアリマス、此ノ點ガ我ガ經濟界ニ於テモ非常ニ要求スル所トナックノデアリマシテ、今申述ベタ通リニ有限責任デハアルガ、併シ少數ノ信賴者同志デ組織スル會社、成ル程有限責任ト云フ點カラ申シマスルト、株式會社ト同一デアリマスケレドモ、社員ガ少イト云フ點ニ特色ガアルノデアリマシテ、此ノ多少ト云フ問題ハ或ハ程度ノ問題デアルカモ知レマセヌケレドモ、此ノ程度ノ問題ガ自ラ本質的ノ問題トナリマシテ、有限責任會社ト云フ別箇ノ會社ヲ捨ヘル必要ガアルト云フ議ガ抑、起リマシタ當初カラ、左様ナ考ガ我々ノ仲間ニモアツタノデアリマス、デアリマスルカラ、全ク便宜ト御承知ヲ願ヒタイノデアリマスルガ、此ノ便宜ニハ相當ノ價值アルモノト私共ハ存ジテ居ルヤウナ次第デアリマス。

○委員長(山岡萬之助君) 他ニ別段御質疑ニ致シマシタコトハ全ク便宜デアリマシテ、ハゴザイマセヌカ、他ニ御發言モナイヤウデアリマスカラ、此ノ法案ニ對シマスル質疑ハ一應終ツタモノト致シマシテ、尙今一回會議ヲ繼續致シタイト思ヒマス、本日ハ此

ノ程度デ會議ハ止メタイト思ヒマス

午前十一時五十分散會

出席者左ノ如シ

委員長

山岡萬之助君

委員

子爵舟橋 清賢君

中川 健藏君

男爵奥田 剛郎君

山隈 康君

森 平兵衛君

岩田 宙造君

政府委員

司法省民事局長 大森 洪太君

司法省刑事局長 松阪 廣政君

昭和十三年一月七日印刷

昭和十三年一月八日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局